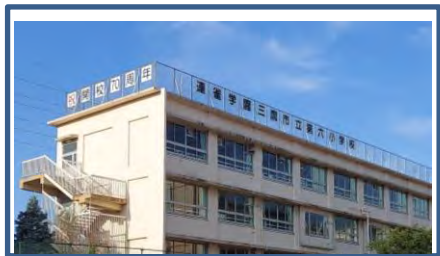


連雀学園三鷹市立第六小学校（2年目）



【校長】 藤原 和彦
 【児童数】 768人
 【学級数】 29学級

次の取組へ

【課題・改善】

- 運動をするのが好きではない児童は 8.5%、体育嫌いは 5.6%と存在する。今後も「運動することが楽しい」と思えるように、体育の授業改善、個別の働きかけ、運動の日常化を図っていく。
- 規則正しい生活をしていると自信をもっている児童は、39%である。今後も保健指導、保健学習を通して、家庭と連携しながら生活習慣の改善を図っていく。
- 食育の系統的な学習計画を作成する必要がある。今年度の実践を整理し、系統的な学習内容になる年間計画を作成する。

【1年目における実態・課題】

- 体力低下（令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査・5年生から、男子は体力調査のすべての項目で全国平均を下回り、女子は半分の項目が全国平均を下回った）
- 運動は大切だと82.9%の児童が感じているが、運動は好きと回答したのは69.4%
- 規則正しい生活は大切だと82.1%の児童が感じているが、規則正しい生活ができていると回答したのは38.4%
- 栄養バランスよく食べることは大切だと87.2%の児童が感じているが、好き嫌いをなく食べられていると回答したのは37.9%
- 平日の平均睡眠時間が8時間に満たない児童が33.8%

目標

- 運動が好きと感じる児童の育成（全体の75%以上）
- 運動が好きではない児童への手だてを明らかにする
- 規則正しい生活を送ることに対する自信がある児童の育成（全体の45%以上）
- 好き嫌いをなく食べる児童の育成（全体の50%以上）

【成果】

- 「体を動かしたり運動したりすることが好きですか」という質問に肯定的な回答をした児童は91.5%
- 「体育の学習は楽しいですか」という質問に、肯定的な回答をした児童は94.4%
- 運動や体育の授業が好きではない児童への手だてとして、「できなくても楽しい」ことを児童に感じてもらうためにも、運動そのものがもつ特性を十分に味わわせることが大切だと分かった。また、失敗しても安心だという学級集団作りも大切である。
- 体育嫌いを減らすことができた
- 規則正しい生活ができているという質問に、肯定的な回答をした児童は82.9%
- 好き嫌いをなく、栄養のバランスよく食べられているという質問に、肯定的な回答をした児童は83.7%

【取組】

- 運動・保健・食育の3本柱を軸にした取組
- ＜運動面の取組＞
 - 研究授業（体育科）を設定し、授業改善
 - 体育的活動を年間10回設定
 - 運動が苦手な児童への個別の声掛け
 - オリンピアン・パラリンピアン、アスリート派遣授業
- ＜保健面の取組＞
 - 研究授業（保健領域）を設定し、授業改善
 - 生活習慣改善のためのモニタリングシート
 - 自分の健康状況を記録する取組（保健委員会等）
- ＜食育面の取組＞
 - 研究授業（総合・学活・生活科）を設定し、授業改善
 - 給食残菜を減らす取組（給食委員会等）
 - 家庭・地域の方との懇談会「食育シンポジウム」開催

【取組（詳細）】

＜運動面の取組＞

- 体育的活動「六スポ」を年間10回設定（おもいっきりスロー・鬼ヶ島ックス・ドッチビー等）
- 30分の昼休みを使い、学校全体をたてわり班に分け、運動の日常化を図る



- オリンピアン・パラリンピアン、アスリートの出前授業
- 本物のアスリート、多様なスポーツに触れる機会の設定

- 6/20 八木かなえさん（ウエイトリフティング）
- 7/14 島田芽依さん（サッカー）
- 9/9 柴田隆一さん（水泳）
- 9/14 高木菜那さん（スピードスケート）
- 12/15 花岡伸和さん（パラ陸上）
- 12/20 井上潮音さん（サッカー）
- 1/29 鹿島丈博さん（体操）
- 12/6 伊藤美乃りさん（卓球）※保護者向け



＜保健面の取組＞

- 生活習慣改善のためのモニタリングシート
- 自分の健康状況を記録する取組（保健委員会等）
- 養護教諭と一緒にいる保健の授業



＜食育面の取組＞

- 家庭・地域の方との懇談会
- 9月9日（土）4時間目 地域・保護者参加型「食育シンポジウム」
- パネラー：柴田隆一さん（元オリンピックの管理栄養士）
- 本校PTA会長・副会長、CS委員
- 本校校長、研究主任、養護教諭、栄養士

